

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105077		
法人名	医療法人秀和会 釣船医院		
事業所名	グループホーム『おお空』 1F青天		
所在地	長崎市かき道1丁目29番8号		
自己評価作成日	令和4年10月14日	評価結果市町村受理日	令和5年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年 11月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の支援については、入居者様個々人の状態に合わせ、お気持ちを尊重しながら対応しています。母体が医療法人の為、体調変化等あれば看護師・医師への報告体制も整えており、すぐに対応できています。精神面においてご家族様には日頃から状態を分かりやすく説明しており、介護ケアが困難と判断した場合はご家族様にも協力を得て適切な医療機関への受診対応をお願いしています。コロナ禍で行事やレク・外出等難しい状況でしたが春は花見・お茶会・月ごとのディスプレイと一緒に作ったり毎日の体操で身体機能維持にも努めています。昨年から若手職員が1名加わり、フレッシュな雰囲気となりました。介護ケアでうまくいったこと、ダメだったことを都度協議して情報を共有し若手・中堅・ベテランの良いコミュニケーションがとれています。介護支援において職員間の雰囲気は大切な要素であると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「いっしょに、いつも、いつまでも」を柱に、入居者の「喜ぶこと・得意なこと」に焦点を合わせた支援を強みとしている。新型コロナ禍において感染者減少時には、花見や水族館、コスモス見学等への外出で気分転換を図っている他、音楽療法や手先の運動、手芸や習字等得意なことも支援している。「お茶会」では全入居者が着物を着て髪をセットし化粧も施し、普段とは違う凛とした姿が見られるなど、全員が笑顔で暮らしている様子が窺える。面会制限中の家族には、毎月の暮らしぶりを写真付きの便りで知らせている他、InstagramやLINEを活用し家族との絆を深めている。勤続年数の長い職員が多く働きやすい職場で、ホーム長と両ユニットの管理者が、職員一人ひとりに目を配りチームワークが良く、ホーム全体の結束へと繋がっていることは特長である。入居者と職員が明るく活き活きと暮らせるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつまでも一緒に、元気に過ごせるように日々のお世話や健康管理を行っている。主治医や歯科など連携を取り安心して過ごしていただけるよう職員一同で常に話し合いや意見交換をしている。	入居者との末永い関係をモットーとしており、勤続年数の長い職員が多いことも理念「いっしょにいつまでも」に通じている。新人職員にも、理念の意味を伝えている。退院後の受け入れが困難となった入居者について、理事長の助言で理念に立ち返り、再入居が決まった事例がある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現状、コロナ禍であったため地域行事に参加ができていない。	コロナ禍により地域行事や保育園児・ボランティアの訪問等が延期となり交流が途絶えているが、収束後は再開予定である。自治会に加入し、職員が地域の神社の清掃に参加している他、出初式にお神酒を寄進するなど、ホーム自体が地域の一員として日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で自治会のボランティア活動が中止となり交流機会が持てなかった。ご家族に向けては毎月のお便りや、インスタを始め様子や認知症症状や様子、ケアや関わり方を伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議自体はできていないが、書面にて構成委員へ報告し意見や感想を頂いている。その意見は職員で共有し励まされたり、課題として取り組むように心がけている。	令和2年4月から引き続き、今年度も新型コロナ禍の為、書面会議を行っている。行政や地域住民代表の運営推進委員に文書で報告後感想や意見等を得ている。ただし、会議2回分の議事録をまとめて作成しているため、運営推進委員との意見交換の経緯等が確認できない。	書面会議であっても、省令通り年6回開催し、1回ごとに議事録をまとめ、毎回運営推進委員との意見交換内容を掲載し、次回に繋げることでサービス向上に反映していくことが望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市に提出する書類の不明な点を問い合わせ、運営議題の助言などをいただくなど、連絡を取り合っている。	今年度は県からの新型コロナによるクラスター福祉施設の応援要請に応えている。また、オンラインによる研修受講の他、コロナ禍により集団指導が動画配信・資料配付に変更しており必要な情報を得ている。運営上の手続き等も問い合わせ、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を発足し、全職員で勉強会を行っている。日頃の事例をもとに話し合うなどケアに活かせるように心がけている。玄関は出るとすぐに道路があり危険なため、常に施錠している。	身体拘束廃止委員会を2ヶ月毎に開き、転倒リスクや帰宅願望による徘徊がある入居者等、不適切ケアに繋がる原因を検討している。年間計画に沿って年2回ホーム内勉強会で全職員への周知も図っている。また、言葉の拘束など、職員間で検討し、拘束のない支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を発足し、内容を全職員で共有している。問題となるような事が起こった場合は、すぐに話し合い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームの勉強会のほか、定期的開催する委員会を発足し、事例などを挙げながら学んでいる。入居者様一人一人の代弁者であることを日々思いながらどう支援してほしいのかを職員間で共有し活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前訪問においてご家族とご本人の状況把握に努め契約前に再度十分に時間を取り納得されるよう説明を行っている。質問やわからないことはどんどん聞いて頂き納得され契約いただくように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で直接家族等の意見を伺う機会が減っているが、メールや電話、お便りなどの配りもの、SNS(インスタ)などを活用し意見や要望が表しやすいように努めている。	新型コロナ禍で家族の面会が難しいため、職員が入居者のプライバシーに配慮して一般には非公開の登録方式でのInstagramを立ち上げている。LINEも活用し日常の様子を伝え、海外や遠方の家族はもとより、多くの家族に喜ばれている。また、おお空新聞や便りも活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で管理者に直接意見や要望を伝え、必要であれば事務長や理事長に伝えている。	毎月の職員会議では、勉強会も行っている。勤続年数が長い職員が多く、意見やアイデアも多く出ており、職員間で共有している。職員の意見から畳コーナーをフローリングへのリフォームや福祉車両、除湿器の購入など反映した事例は多数ある。休憩時間も確保し、働きやすい職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の体調や家族環境に気を配り残業を少なくしたり、働きやすい環境を整えている。個々に応じてやりがいがあるように声掛けや担当を設けるなどして意欲が持てるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、研修会の参加の機会が減ってしまったが、ZOOMなどを利用し参加できるように整えている。また、委員会や事例を通してホーム内の勉強会を開催している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流が困難になっている。新たな取り組み方を考えていく必要がある。コロナクラスターの援助要請等には派遣に行き、他施設の取り組みなども参考にできた。胃ろうを行うことが決定した際は他の施設に確認をするなどしてスムーズに取り入れることができた。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族やご本人からの情報提供をもとに入居者様の以前の状況を把握し、ご本人との会話や、日々の様子から不安なことや、要望を理解し職員で共有して取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族との面談の折これまでの生活に対する思いや入居後の思い、ホームへの要望などを確認し精神的・身体的にサポートしサービス提供を行うことを説明する。入居後は入居者様の様子をお電話でお伝えするなどしてご家族に安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至るまでの様子をご家族やご本人から詳しく聞き、どんな支援が必要であるかを一緒に考えて、サービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の興味のある事、できることを聞き行事の飾りや、毎日の洗濯物たたみ等、職員と一緒にいき暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限はあるが可能な限り会えるように配慮している。又通院やお薬を持参してもらう等ご家族が支えになっていることをお伝えしている。インスタや、お便りお電話などを通して日頃の様子をお伝えし共に支え合う関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限や外出制限があり難しくなっている現状がある。インスタを開設し遠方のご家族や親戚の方にも様子が分かるように心がけている。インスタを始めてお孫さんやご家族から「様子が分かって嬉しいです」などのコメントもいただいている。コメントは入居者様にもお伝えするようにしている。	コロナ禍前は、近所の人や自治会長、親戚の訪問があったが、現在は2ヶ月に1度理美容院の訪問がある。10年以上継続している月2回の音楽療法は、入居者の馴染みの場となっている。編み物が趣味の入居者は小物を編んだり、歌好きな人は歌の本を見ながら歌う等、継続するよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の性格を考慮してテーブル席を決めたり、それぞれにとっていいコミュニケーションがとれるようにグループでの製作やお手伝いをお願いしている。お話し中職員が配慮した方がいい時にはすぐに対応するなど、入居者様同士での関係性も大事にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去で残念ながら亡くなり最後のお別れをし、葬儀に参列しご家族にも哀悼の意を示した。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活はご本人のペースに合わせ対応し会話等から感じ取ったことをもとにケアにつなげている。	本人の生活歴はアセスメント表に「私のことを知る為に」という欄を設けており、職員が知り得た情報を記して共有している。茶会では入居者が和装し化粧する機会となっており、本人・家族に好評であるため、今後は正月にも和装を取り入れたいと考えている。職員は入居者の僅かな表情から気持ちを汲み取り、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族からの情報や、日頃の生活の中で会話等から思い出を引き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェック等で体調把握をし生活の上でできる事、できないことを見極めスタッフ間でも常に情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療・介護スタッフご家族と連携しご本人と課題やケアのあり方について常に検討し意見やアイデアを出し合っている。	新規の入居者には暫定1ヶ月の計画を立て、その後短期6ヶ月・長期12ヶ月の介護計画を作成している。2ヶ月に1回モニタリングを実施し、コロナ禍により主に電話にて家族の要望を聞き見直している。退院後や看取り期には医師の意見を基に計画を変更することもある。ただし、介護記録の記録内容ではプランとの連動がみられない。	入居者一人ひとりの介護計画を職員間で共有しながら実践・見直しに繋げていくことが望まれる。そのためには、計画と記録の連動について検討、工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアは個別記録に記入、し気づき等があればすぐに職員間で情報共有している。状態変化があれば、介護計画を見直し計画に沿ってケアを実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院後に胃ろうえお増設した方がおり、本来であればホームでの対応が難しかったがナースをはじめ胃ろうができる環境を整え受け入れることができた。色んなニーズ把握をし職員間で情報共有、ケアマネジメントを行いサービスを取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回の訪問診療を行ってる。希望により、これまでのかかりつけ医に受診される方もいる。ナースも常勤しており、異常の早期発見、対応ができています。必要時にはご家族に連絡し他科受診や検査・入院などがスムーズにできる体制をとっている。	かかりつけ医の継続は可能であるが、全入居者が母体法人の医療機関をかかりつけ医としており、週1回往診を受けている。常勤看護師が健康状態を確認後医師へ報告している。他科の通院時は、基本的に家族が同行し、結果内容を職員間で共有し、緊急時や地区内の歯科医院等は、職員が同行するなど適切に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや、業務の中で報告がある為必要な看護・医療がスムーズに行えている。ご家族へも体調変化があればナースからも都度報告する為、安心して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護のサマリーとナースのサマリーも提供し入居者様が安心して入院生活が送れるように配慮している。またナース常勤の為、早期退院に繋がるケースも多く、入居者様とご家族の安心安全に繋がっている。胃ろう交換もある為、連携を取り良好な関係作りができていと思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針をもとに、必要時にはDrに確認後、ご家族に説明する機会を設けている。入居時にも「看取りについて」という説明を行っている。高齢による体力低下や、疾患の重度化が考えられる際はナースやケアマネを通しご家族と話をする機会を度々設けるようにしている。	昨年、今年度と看取り支援を行っている。入居時看取りについて家族と指針の共有を行い、重度化の際は医師を交えた意向の再聴取や説明により、家族の同意を得ている。母体法人の医療機関との連携体制を確保し、ホーム内勉強会「看取りケア」の開催等積極的に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設の母体が医療機関であるため、急変時等は指示を仰ぎ速やかに対応している。マニュアル体制もできている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月の消防訓練を火元や状況を変え搬送方法などを確認しながら行っている。6月と12月には総合訓練・設備等の点検をおこなっている。	毎月の自主訓練では、夜間・深夜・早朝の時間帯を想定するなどさまざまな取組が確認できる。年2回総合避難訓練を実施しており、内1回は消防署が立ち会っている。ただし、自然災害の避難訓練、自然災害マニュアル作成、非常持ち出し品の整備においては検討中の段階であると共に、避難訓練時の居室内の確認には課題が残る。	毎月の自主訓練と同様に、自然災害の避難訓練の実施が待たれる。更にホームの立地条件を基にした独自の自然災害マニュアルの作成等にも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入る際はノックや、声掛けを行っている。排泄や入浴介助では常に声掛けを行い、ご本人の意思を尊重し対応している。	職員は苗字にさん付けを基本としており、入居者によっては名前にさん付けが良い場合があり臨機応変に対応している。失敗時はさりげなく職員間で目配りし支援している。Instagramや便りなどに写真を掲載する場合については家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を傾聴しできるだけ希望通りになるように接することを心がけている。自己決定が難しい方は簡単な質問にして、どうしたいかを尋ねる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中は個別にしたいこと(パズルや積み木、歌を唄う、DVD視聴など)を確認して行ってもら。午後からは、お昼寝や体操などその都度意思を確認し参加して頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装、その日の気分や気温に合わせて衣類調整している。爪切りや髭剃り、髪をとくなどご自身でできる方には声掛けを行っている。定期的に訪問美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスや食べやすさ等を考え外部からの食事を注文している。季節の行事食はスタッフで話し合い食事メニューに追加したりおやつを工夫し提供している。	食事は外注食であり、ソフト食にも対応している。キザミなどは職員が行い提供している。誕生日にはスポンジケーキに本人がデコレーションしている。敬老の日は入居者と一緒に紅白まんじゅうや枇杷のコンポートを作っている他、畑で収穫したさつま芋でスイートポテトを作るなど食を楽しむことができるよう職員が工夫していることがわかる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事形態での提供や疾患(糖尿やアレルギー等)を考え看護師と相談し提供している。食事時間も個々に合わせ提供している。体重管理や水分管理を行い看護師とともに体調管理に気を付けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。自力でできる方は声掛けを行っている。義歯の清潔管理を徹底しトラブルがある場合は、訪問歯科にお願いするなど連携をとっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表での確認をし、定期的に声掛けや誘導、必要な部分の援助を行う。尿意を催したことがわかるようなしぐさを見逃さずにトイレ誘導をしている。	職員は入居者の排泄の自立を目指し、日中はトイレでの排泄を支援している。排泄チェック表の記録を基にリハビリパンツを使用している入居者も定期的に誘導しており、現在自身で排泄できる入居者も数名いる。ポータブルトイレや尿器の洗浄もこまめに行い、清潔を保持している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表での確認をし便秘があるようであれば個々にあった下剤等を内服しコントロールする。水分量のチェックや、おなかの動きをよくする飲み物(牛乳やヤクルトなど)を飲んでいただいたり、運動をするなど便秘予防に日頃から取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルを確認し入居者様へ声掛けを行い、入浴して頂いている。拒否が続く方もおられるが、無理はせず声掛けや、タイミングの工夫をしている。どうしても入浴が難しい場合は清拭などに切り替えることもある。	入浴は週2回とし、入浴日以外は毎朝更衣し清潔に過ごせるよう支援している。入浴拒否の場合は無理強いせず翌日声を掛けている。車椅子で生活していて立位が困難な場合はシャワー浴が多いが、本人の希望に沿って職員2人で浴槽に浸かるよう支援している。菖蒲湯やゆず湯なども提供しており、入浴を楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間用の衣類に着替えることで入眠を促している。季節に応じて、居室の室温管理を行っている。入眠しやすい雰囲気になるように環境や、声掛けのトーンに気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の名前を袋に書き、内服時は数や中身の確認をダブルチェックしている。内服時にお名前を確認し誤薬のないように努めている。内服による効果や、効能をナースとともに評価し必要性を考え主治医に様子報告。調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズルや絵合わせなど、楽しく過ごせるように選んでいた。全員で行うときは風船バレーやトランプなどをして過ごすこともある。お手伝いが好きな方には進んでお手伝いをお願いし、やりがいや喜びを持っていただく。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において現状外出ができないことが多い、また、入居者様の年齢やADLを考えると外出が難しい方が増えてきているのが現状である。	コロナ禍では、春秋に少人数で弁当を持参し花見している。また天気の良い日は、ベランダに椅子を並べて日光浴したり、屋上に出て外気浴し気分転換を図っている。家族が通院介助する場合は、昼ご飯を一緒に食べて戻ることもあり、日常的に外出する機会を設け、支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームではお金の管理は入居者様にはしてもらっていない、預かり金として預かり、必要なものがあるときはいつでもそこから購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族からのおハガキが届きお渡ししたり、読み上げることがある。また年賀状や暑中お見舞いなどを入居者様と作り出している。お電話の希望があればご家族の了承をいただき電話を使うこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目の付くところに時計やカレンダーを設置している。詩文が読める方には読んでいただいている。リビングには季節の飾りを展示し季節感を取り入れている。	リビングでは入居者がテーブルやソファで寛いでいる他、歩行訓練や畳の間の小上がりに腰掛け洗濯物を畳むなど活動の場となっている。また、季節を感じながら干し柿の貼り絵等を楽しんでいると共に、運動会の題目を毛筆で描くなど得意分野を発揮している。1階のリビングを改修し、テーブル数を増やす等快適な空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士でDVDやTVを見て会話しながら楽しく過ごしていただいている。リビングでの居心地が悪いときは、居室でゆっくり過ごしていただくなど、個々の意思を尊重して過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から、使い慣れたTVやテーブルなどを置き自立して生活を支援している。タンスにしまう衣類に記名しご自身でもしめることができるようにしている。	居室は広さがあり、自宅からテーブルや椅子、ハンガーラック、飾りもの等を持ち込んでいる他、入居者による直筆の習字「百歳」を掲示するなど、自宅に近い個性豊かな環境にある。ベッドの位置を壁から離し、トイレまでの動線を確保している居室もあり、安全性と過ごしやすさに配慮している。職員は換気や清掃を行い、環境整備を担っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように貼り紙で案内している。できるお手伝いをして頂き自信や喜びを感じていただけるように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105077		
法人名	医療法人秀和会釣船医院		
事業所名	グループホーム『おお空』2F満天		
所在地	長崎県長崎市かき道1丁目29番8号		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年11月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して17年、当ホームの認知症介護の関わりは、穏やかに混乱なく楽しく過ごして頂く事を最優先に取り組んできました、開所当初は認知症という言葉のみが先行して、その日その日の入居者対応に振り回される日々だった。私達にとって歳月での経験は生きた教材でもあり研修・勉強会の学びも大切だと思いますが日々の認知症施設での実体験のこそ財産だと感じてます、私達のホームは若手の人材の育成の過渡期になるかと思いますがホーム開所以来、現役で働き経験を積まれている職員も多く、ここにきて数名の若い介護職員入り、頼りになる医療系ナースの充実した施設になりつつあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に上げている	経験豊かな職員も多く「いっしょにいつもいっまでも」企業理念は積み重ねた経験があり浸透し職員は実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は年間事業計画書に組み入れ、ボランティア支援の交流はコロナ過で現状厳しいが受入体制は整っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、コロナ禍において実践的な交流は控えているが地域の清掃活動の支援、地域の催し物への参加協力、慰問交流の活動は今後も取り組んでいく。コロナクラスターの応援要請には参加をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成委員の皆様には現在コロナ過で運営会議がはできない状況ですが書面表決でのホーム運営での議事録報告を行い構成委員の方から必ず、一言、コメントを頂き参考にしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	業務書類の問い合わせ、運営推進会議への構成委員の要請、市町村からの協力依頼等、連携協力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、職員は身体拘束の意味理解したうえ身体拘束適正化指針を基本にケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束は常に職員間で日常の新聞報道への話題等、定例会議で取り上げて虐待・拘束に繋がる原因を職員みんなでオープンで話し合いしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内勉強会で権利擁護・苦情相談の担当者を決めており、研修報告で実践的事例報告等を勉強する機会を設けて話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に負担がなく簡素で分かりやすく契約ができるように重要事項・契約説明書を先に読み込んで頂き、分かりにくい点を当日理解できるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍にあつて本来ならご家族に運営会議議事録報告を郵送しておりましたが現状開催の目途が立たず書面表決による議事録を構成委員の方へ郵送すると共に運営的な大切な報告は改めてご家族に文書で報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ過で職員会議での集まる機会が少なくなる一方、運営に支障がないように職員意見・要望は管理職間で現場の意見を聞き入れ支障がないように取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の就業環境で一部の人に負担がかからないように職員みんなで補える平等な環境整備はしている、人員不足で時間外労働の負担がかかる場合は、理事長に相談し環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	長期在籍している職員が多く統一されたケアのやり方が共有されるように情報の徹底を図っている在籍年数が少ない職員が誰にでも相談できる環境に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	残念ながらコロナ過で交流する機会が少なくなったが近隣の同業者、市GH認知症協議会への相談・助言への電話での協力体制は大切にしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行っている。ご本人が困っていること、不安なこと、望む生活等お訊ねしている。職員は、ご本人の発する言葉に耳を傾け、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行い、その中でご家族のこれまでの苦労や不安なこと、困っていること、これからどのような暮らしを望んでいるか？又、これまでの生活歴やこだわり等もお訊ねし、これから一緒に入居者様を支えていくチームの一員として話しやすい雰囲気作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談に見えた時早急な対応が必要と判断したときには、地域包括支援センター他事業所等への紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で人生の先輩である入居者様に教えてもらうことがたくさんある。家事作業等一緒に行いお互いが協同しながら和やかな生活ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日々に様子を細かくお伝えしている。ケアのヒントになるエピソードなど家族より聞くこともある。入居者様をご家族と同じ思いで支援していることも伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で面会制限がある中、お手紙やSNSを通して入居者様の様子を身近に感じて頂くことができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず 利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努 めている	気の合う入居者様同士少しでも会話が弾む ように、座席の配置に気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性 を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	入居者様が退去された後も、ご家族と連絡 を取り合い、近況報告や介護についての相 談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努 めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で入居者様の発する言葉 を大切にしている。表情やしぐさも同様、意 思を発信できない方の気持ちを汲み取る努 力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、こ れまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後、ご本人またはご家族からこれまで の生活状況、こだわりなどお訊ねしている。 時間をかけ少しづつ聞き取りライフレビュー を組み立てながらご本人のバックグラウンドを 計努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	職員は入居者様一人一人の生活リズムの 把握に努めている。また、できる事できそう なことへの視点も大切に現状の把握に努め ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につい て、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの 意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作 成している	2か月に一度モニタリングを行っている。職 員1名ずつ担当制でそれぞれの気づきやケ アのアイデア等意見を出し合いケアプランを 作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介 護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で気づきや様子の変化は、 生活記録や申し送りノートに記入し情報共 有している。記録をもとにケアプランの見直 し、評価を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取り介護の中で、最期の桜見物を、ご家族と一緒に、看護師同行で実現し喜んで頂いた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、外出制限もある中、感染予防を行いつつ、近くの公園にお花見やペンギン水族館への外出を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームに入居した後も、それ以前の馴染みのかかりつけ医への受診を、日頃のご様子やバイタルをお手紙で伝え支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには常勤で看護師が在職している。入居者様の体調の変化や気になることは、常に看護師に相談し、必要な時には受診の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	環境の変化によるダメージを最小限に防ぐ為、ご家族の意向を確認しつつ、入院直後より、早期の退院に向けて、MSW・ホーム看護師とも協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、人生の最期をどこでどう過ごすか？ホームでできること、できないことを説明し、ご家族の意向を確認しながら要望があれば、看取り介護にも取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変やケガをした時の対応マニュアルをリビングに置いている。又、医療職との連携も24時間可能となっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	近隣の避難施設に訓練計画を立てたがコロナ状況下にあつて中止になった総合的な訓練が難しく防災教育を職員に意識付けする為に防災ビデオ配信、緊急災害時の情報収集・連絡・連携と必要な準備品の備えを対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室は施錠できるようになっている。訪室する際はノックをし声を掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや服などを選ぶ方には選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のできることを毎日のようにしてもらうのではなく、都度意思を確認し、別のことをしてみたり、たまには休んだり個々のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選ぶ方は個々におしゃれに着ていただいている。アクセサリをつける方もいる。自分で選べない方は担当のスタッフがタンスに季節に応じた服を準備し選びやすいようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食事の形態に応じて常食・刻み食・ソフト食を提供している。週に1回は手作りのおやつを提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事形態で対応している。摂取量や水分量はそれぞれチェック表に記入し不足している方には好みのものに変更したり、摂取量を確保している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自身でできる方には声を掛け歯磨きをして頂く、自力でできない方にはその方にあった道具（歯ブラシ・スポンジ・口腔ティッシュを使い分けている。）		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や尿意を催した時の行動パターンを把握し、スタッフ間で共有し、できるだけトイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し、便秘解消するために牛乳や、ヨーグルト等を提供する。便秘が続く際は、個々に応じて主治医に確認し下剤の調整を行い排便コントロールにつなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴で入ることができている。時間や曜日等は決まっているが、必ず入浴の前に声掛けを行い意思の確認をしている。喜んで入ることができるように声掛けは特に大事にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の1日の流れの中で午前中休まれたり、午後から休まれたりとその人のリズムを大事にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てのスタッフが入居者様の薬を把握できるよう表を置いている。又、薬の変更等があれば必ず申し送りや記録にてわかるようにしている。ナースが常勤でいるため薬全体の管理や飲み方などすぐに確認できる体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものたたみが好きな方、気になる方には率先してお願いし、やりがいや喜びをもっといただけるよう配慮している。楽しみ都市ビールを飲みたい方にはノンアルコールビールを提供するなど希望に添えるように心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であったため、外食や外出ができない今、テイクアウトを頼むなどして違うメニューを味わっていただいた。花見は少人数で車中から眺めてもらい季節を感じていただけるように支援した。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは基本的に現金を入居者様に所持してもらうことは混乱を招くことが多いため、預かり金としてご家族確認の元ホームで管理している。好きなものを買いたい時には、その預り金から購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があるときに時間などを考え利用して頂く。年賀状、暑中お見舞いなどで交流している。又、ご家族から届くはがきを楽しみに読まれ離方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事故に繋がるような危険物や障害物がないよう環境を整えている。四季折々の掲示物を飾り季節が分かりやすいように配慮する。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士が楽しく過ごせるように配慮している。洗濯物をたたまれたり、ゆっくりお昼寝されたりと個々の意思を尊重し過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていた使い慣れた家具を持ってきてもらい、混乱が少ない様にまた、ご本人の動線に合うように必要な際は模様替えをするなど工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖や手すりを利用して頂き歩行を安全に行っている。独歩の方には声掛けや見守り、安全な方向転換等ができるように環境整備に努めている。トイレなどは分かりやすいように、文字や矢印で場所を案内している。		